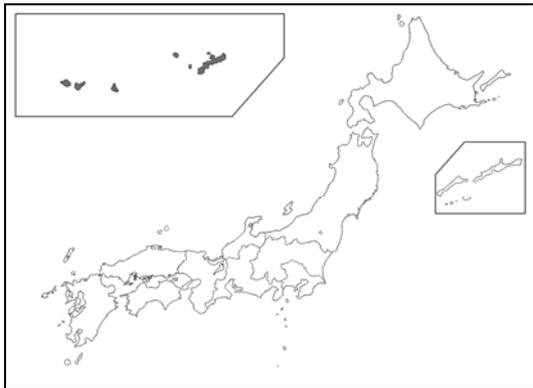


(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は着実に回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は堅調に増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

なし

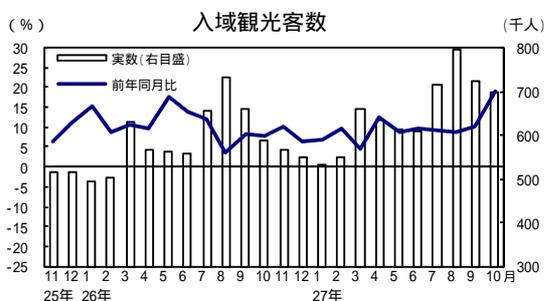
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数のうち、国内客については、7月は、3度にわたる台風の影響や、9月の連休へ旅行需要が分散したこと等から前年を下回った。8月は、お盆休み期間を中心に好調に推移したものの、下旬の大型台風の影響等から、前年を下回った。9月は、台風の影響はあったものの、連休の旅行需要の高まり等から、前年を上回った。

外国客については、7月は、台風の影響が懸念されたものの、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数的大幅な増加等から、前年を上回った。8月は、引き続き航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増加などにより、前年を上回った。9月は、中秋節の連休による旅行需要の高まりや、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増加などが引き続きあったこと等から、前年を上回った。

主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテルは前年同期を上回っており、リゾートホテルは前年同期とほぼ同水準である。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
入域観光客数	1,740	1,857	2,236	697
(前年比)	6.9	10.2	9.3	18.9
ホテル稼働率	81.4	77.1	87.8	-
(前年差)	2.4	1.3	0.9	-

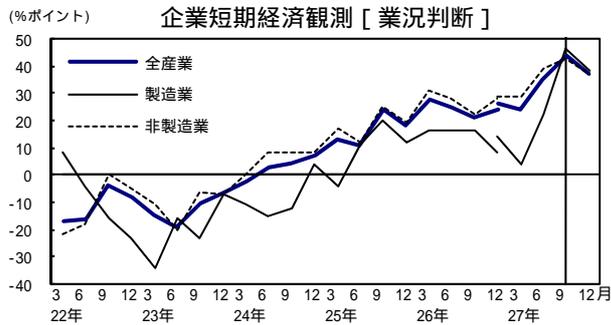
(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光政策課調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

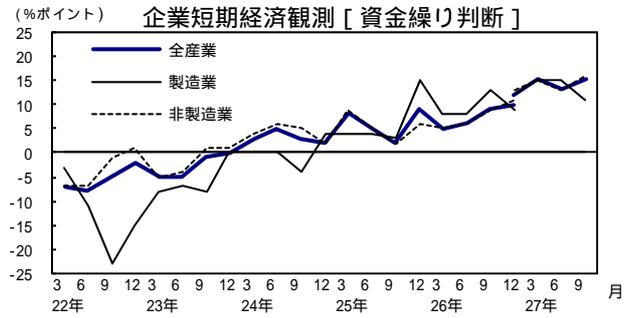
3. ホテル稼働率の前年差については、内閣府にて算出。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅が、それぞれ拡大している。

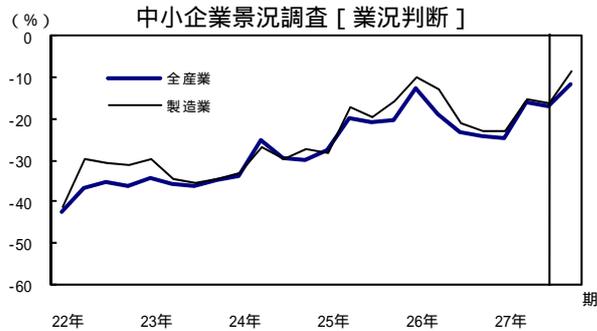
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

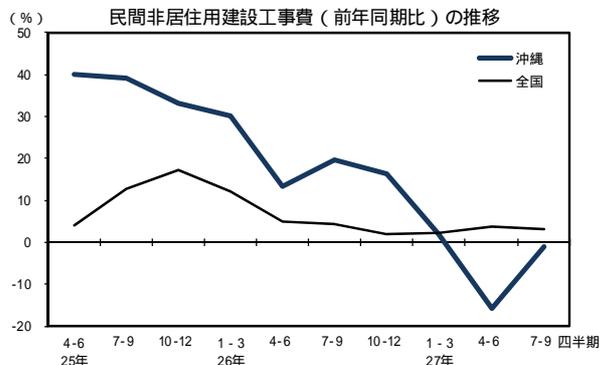


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「全般的な物量自体は大きく増えてはいないが、人件費高騰による原価増に対する荷主との条件改定がすすみ、収益増となっている。また原価の一部であるトラック燃料も安くなり、収益改善の後押しとなっている(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度見極
全産業	10.2	12.8(0.2)
製造業	1.4	49.4(5.7)
非製造業	14.0	2.5(0.7)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.1%増、8月は同0.6%増、9月は同0.3%増となった。

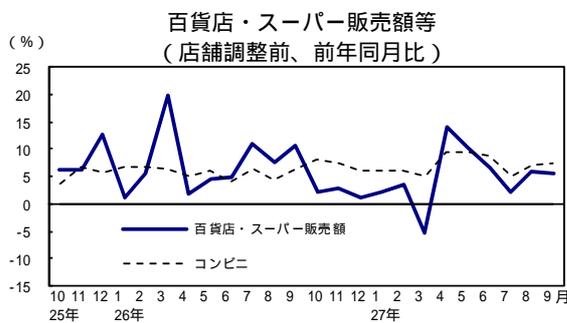
百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパー販売額は、7月は改装効果に加え、食料品や住居関連が好調に推移した等から、前年を上回った。8月は中元ギフトなど旧盆需要が後ずれしたことや、食料品や住居関連が引き続き好調に推移したこと等から、前年を上回った。9月は前年より休日が多かったこともあり、衣料品や食料品が好調に推移したこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

沖縄地域の家計動向関連DIは、56.0となり前月より3.3ポイント低下した。

「例年10~11月は売上が悪いが、そのなかでも地域によりパターンが明確になりつつある。一般的に金曜、土曜は集客できる曜日であるが、地域によっては週末地元入客の落ち込みが大きくなっている (その他飲食 [居酒屋])」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

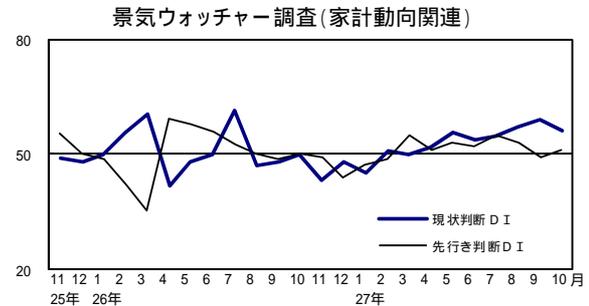
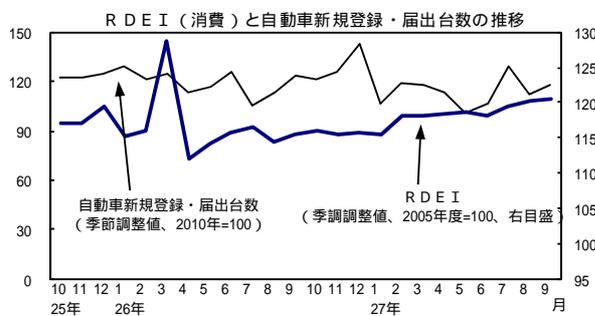


	27年7-9月	27年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.4	1.1	0.6	0.3
百貨店・スーパー(*2)	4.6	2.3	5.9	5.5
コンビニ(*2)	6.6	5.1	7.1	7.5
乗用車(*3)	6.2	18.6	3.7	5.1
(季節調整値)(*3)	11.9	20.8	13.0	4.9

(備考) 1. 季節調整済前月(月)比 (%)

2. 百貨店・スーパーは経済産業省調べ(店舗調整前)、コンビニは日本銀行(加盟店調べ、前年同期(月)比) (%)

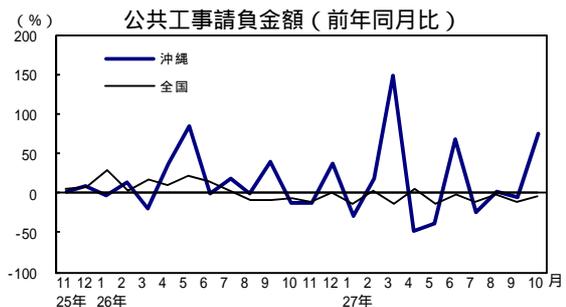
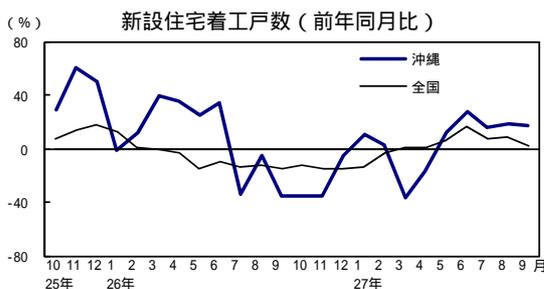
3. 乗用車は、乗用車新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比) (%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度とほぼ同水準である。

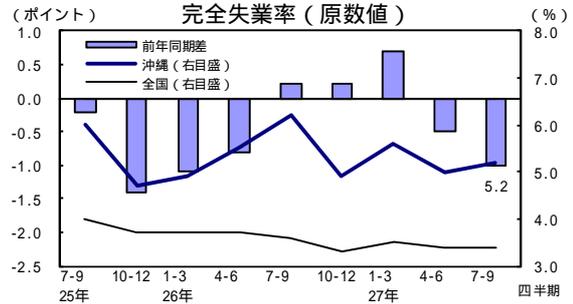
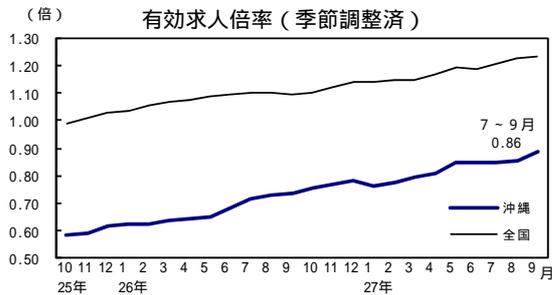


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 沖縄県の完全失業率は、沖縄県「労働力調査」より算出。

景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

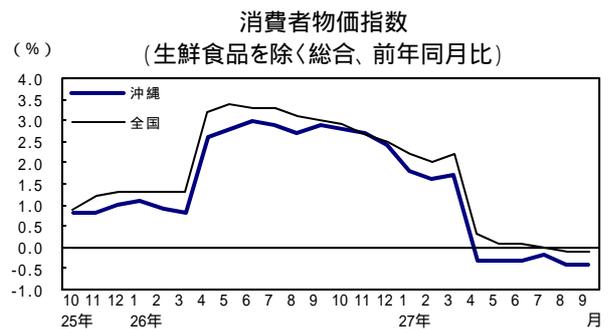
「求人件数が、3か月前と比較すると週平均で63件増加している(求人情報誌製作会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年10-12月	27年1-3月	4-6月	7-9月	27年10月
倒産件数	28	22	12	18	3
(前年比)	100.0	22.2	14.3	0.0	72.7
負債総額	21	23	9	53	3
(前年比)	76.3	8.9	77.5	182.4	57.0



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・旅行の問い合わせは多い。沖縄は陸路がないため旅行の大半が航空券を利用する事になるが、ホテルパックを利用しての航空券や宿泊が取りにくいのが現状である。その辺が改善されれば売上が上がる(旅行代理店)。

<先行き>

・中国経済の動向が気になる場所ではあるが、それに左右されないためにも、店舗改装を随時実施したり、台湾客誘致を強化したり、地域にあった強化策を継続していく(百貨店)。

景気ウォッチャー調査
(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

